

建学の精神		豊かな特性と広く深い学識を持ち、世界的視野に立つ心身ともに明るく健康的な紳士・淑女を養成する。							総合評価	
教育理念		建学の精神に基づき、時代の要請に対応し、現代社会に貢献でき得る人間育成に努める。 学を修め、礼節を重んじる心豊かな品位のある生徒の育成に努める。								
めざす生徒像		目標を高く掲げ、自ら考えて積極的に行動できる生徒。自他の生き方を尊重し、互いを理解し合おうとする生徒。								
学校教育目標		(1) 学業に専念する姿勢を育て、豊かな知性と教養を身に付けさせる。 (2) 自ら問いを立て、他者と協働して課題解決に取り組む力を身に付けさせる。 (3) 自他を敬愛し、自ら進んで社会に貢献しようとする意欲を育てる。 (4) 礼節を重んじ、品位を養い、誠実で寛容な態度を育てる。 (5) 生命を尊び、自然を愛し、崇高なものに感動する心を育てる。								
昨年度の成果と課題		本年度の教育目標			具体的目標				B	
[成果] ・ICT教育の充実 ・本校教育の魅力の発信 [課題] ・コロナ禍における感染防止対策の強化と生徒の学習意欲の高揚及び学力の保証		(1) 自ら考え、何ごとにも積極的に挑戦しようとする態度を育てる。 (2) 礼節を重んじ、他を受け入れる誠実で寛容な態度を育てる。			・基本的な知識・技能を身に付け、自ら考えて体験をしたり、表現したりする活動を通して、知識・技能確実にながら、主体的に学ぶ態度を身に付けさせていく。 ・探究活動をはじめ全教育活動を通して、土台である「考える力」を身に付けさせ、国際社会で通用する力をもった人材を育成する。					
分掌・学年	評価項目	具体的方策		評価指標	自己評価	成果と課題(評価結果の分析)		課題の改善方策等	学校関係者評価	
教務部	学習指導力の向上と授業改善	年間2回の授業公開期間を設け、全教員が公開期間2回のうち1回以上の授業を参観する。 授業単元や内容、工夫点等を事前に授業者に関き取り、授業参観報告書に記入する。また、参観後は、感想・意見・助言・質問等を授業参観報告書に記入し、意見交換をする。意見交換後に授業参観報告書を授業者に提出する。		・全教員が授業公開期間中に1回以上参観できたか。 ・授業参観後、記入した授業参観報告書を授業者に提出し意見交換できたか。	B	8割以上の教員が授業公開期間中に他の授業を参観できた。「授業改善に役立った」「参観者が自分の授業と照らし合わせて見学することで、自身の授業を分析する手助けとなった」「自クラスの雰囲気を知ることができた」などの声が聞かれ、一定の成果を得ることができた。全教員が参観できるよう促していきたい。		次年度も授業公開期間を継続して設定することで、「学習指導力の向上」「授業改善」につなげ、生徒たちへ還元していきたい。また、教科会議等での連絡の機会を増やし、全教員が自身の教科だけでなく、他教科の授業も積極的に参観できるよう促していきたい。	A	
進路指導部		完全6年制中高一貫教育の特色を活かした進路指導を推進する。 年々変化する大学入試制度に対応するため、具体策を各教科・学年と連携しながら検討・実施する。		・個々の生徒に応じた進路指導を学年間で密接に連携を取りながら推進する。 ・国公立大学、難関私立大学を目指した指導体制を確立する。 ・大学入試に関わる正確な情報を共通理解のため、最新状況について情報を提供する。 ・生徒の希望進路を叶えるため、その意欲を高める指導を推進する。	・教員対象の進学研修会を実施するとともに、各種進学指導研究会に積極的に参加し、最新の進学情報を入手する。 ・生徒対象の進路講演会、進路ホームルーム等を通じて、生徒の進路に対する意識、意欲を早期から高め、行事・取組の事後検証を行う。 ・模擬試験の結果分析から得られた課題を、学年・教科と共有し、連携して克服策を探り、多様な受験方式で国公立大学、難関私立大学への合格者を全体の30%以上にする。 ・キャリア教育におけるホームルームの中で、職業等調べ、将来への希望をはぐくむ。	B	各ホームルーム担任と連携して、個々の生徒に応じた進路指導を推進することができた。大学入試に関わる最新情報に関しては、生徒対象進路説明会や保護者対象進路説明会を実施し、共有することができた。各学年において実施された模擬試験の結果を分析し、各教科と連携をして進路指導に役立てることができた。実施された各種進学指導に関わる研究会や研修会に積極的に参加し最新の進学情報を入手し共有することができた。大学入試に関わる最新情報などを共通理解するための職員研修などは、志望校検討会等を通して実施することができた。多様な受験方式を用いて国公立大学、難関私立大学等への合格者を全体の30%に達成することが概ねできた。しかし、旧帝大の合格者を出すことが、2年連続達成することができなかった。		達成できた項目については、次年度も目標項目として維持していきたい。加えて、現中等5年生から新学習指導要領に移行しているため、最新情報入手し職員研修を経て生徒の進路指導に役立てるようにしていきたい。また、進路選択においてミスマッチを起こしてしまう事例が多くあるため、キャリア教育を通して、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力等を育成していきたい。また、旧帝大を含めた国公立大学の合格者を輩出するため、教科指導や進路指導の方法を見直す必要がある。	B
生徒部	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	・毎朝の登校指導と定期的な下校指導 ・遅刻カードによる年間の遅刻回数の把握 ・全校集会毎の身だしなみチェック		・日直や週番活動の日誌による、日々の状況観察 ・昨年度に比べて、全体及び各自の遅刻回数が減少しているか ・改善を指摘される生徒が減少しているか	B	日直、週番の報告では始業間際の登校、挨拶の声が小さいなどが多かった。遅刻の数は、全体的に増減はないが、特定の生徒による遅刻の数は横ばいであった。身だしなみチェックにおいても、指摘の数は横ばいで、指摘される生徒も決まっている。		始業間際の登校や身だしなみの改善については、事前に保護者と連絡・連携を図って指導にあたる。積極的な挨拶、校門での一礼など、それぞれの行動の大切さを全校集会・学年集会・HRで啓発する。	A	
文化図書部		コロナ禍以前の文化活動にできるだけ戻すとともに、さらなる充実を目指す。 図書館利用を活性化させるとともに、蔵書の充実に努める。		・社会情勢に鑑み、コロナ禍以前の文化活動に戻すように、立案・実施し、さらに充実を図るとともに、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育む。 ・図書館の運営については、生徒図書委員会を開き、貸出、返却業務や、購入希望図書アンケートの実施・集計をし、生徒により親しみのわく図書室となるような図書を選定、購入し、可能な限り昼休み放課後に開館する。	・生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことを目的に、社会情勢を鑑みて、文化行事の回数を従来通りの四回以上実施できたか。 ・図書室においては、図書委員の活動を通して、生徒の希望図書を購入でき、週五回以上開館し、利用を促すことができたか。	B	今年度はコロナ5類に移行に伴い、全ての行事がコロナ禍以前と同様に実施することができ、生徒の知的好奇心、創造力、クラスでの団結心を育むことができた。中でも文化祭はコロナ禍以前同様に屋外での模擬店や、館内での演示や、合唱コンクールも元に戻った形での実施は大変好評であった。図書室運営に関しても、毎日、昼休み放課後共に開館で、1日あたりの利用者は平均10人程度ではあるが図書委員を中心に貸出返却業務や、さらに図書だよりも出すことができた。その状況下で、少しずつであるが、生徒により親しみのわく図書室となるように努めることができた。		次年度も文化図書部中心の各種行事を通し、さらなる文化活動の実施とともに内容の精査充実をめざしたい。そして、外部が募る芸術鑑賞会の機会などにも積極的に応募したい。また、図書館については、予算内で室内の配置換えや図書を購入し、さらなる充実を図りたい。	A
保体美化部		学校生活を健全かつ豊かにするため、また、学習効果を高めるため、校舎内及び校庭の環境整備に努める。		・毎月1回の「安全点検の日」を活用し、施設・設備、備品の状態などを確認、保守するとともに、清掃道具についても日常的に整備、保守点検を行う。 ・校舎周りにプランターを設置し、生徒の植物に対する関心や地域との交流の活性化を目指す。 ・生徒が主体となるボランティア清掃等を計画する。	・安全点検による破損箇所の修復を100%行うことができたか。 ・年に2回、生徒主体にプランターの植え替えができたか。 ・校舎・通学路等の清掃を計画立案し実施することができたか。	B	・毎月1回の「安全点検の日」を実施することが出来た。生徒達は、積極的に学校設備や清掃用具の点検を行っていた。また、6月と12月にプランターの植え替え作業を実施した。プランターの整備活動に、一生懸命取り組ませることが出来た。通学路ではないが、生徒が主体となるボランティア清掃として樫原神宮の清掃を行った。		・プランターの植え替え作業には、主に美化委員がかかわっているが、クラスの友達などがボランティアとして参加してくれている。高学年になるほどその傾向があるので、1年生の間からボランティアとして参加する風潮を培いたい。	A
保体美化部		・心身共に健康な学校生活を送ることができる生徒を育てる。 ・感染防止対策の徹底を図る。		・学校管理下での負傷等による保健室入室者数を減少させるために、疾病や怪我の予防法などの情報発信や基礎体力作りに努める。 ・登校前自宅での検温、登校後の検温、教室の換気、手指消毒・咳エチケットの徹底を図る。	・保健室入室者の外科的主訴が、昨年度、捻挫や突き指の疑いが、7%と減少傾向にあるので、昨年の18%を上回らないようにする。そのために、体育授業での十分な準備運動、「ほけんだより」の毎月の発行が実施できたか。 ・発熱生徒の登校前欠席の判断が適切にできたか、感染リスクの高い生徒への咳エチケットの注意喚起ができたか、教室の換気を徹底するために毎時間終了後の教員による確認ができたか。	B	・保健室入室者の外科的主訴が、8%だった。ほぼ横ばいに見えるが、スポーツ振興センターの災害申請は増えていた。 ・発熱生徒の欠席判断は保護者の協力で適切にほぼできた。咳エチケットや手指消毒については、個人差が現れた。換気の徹底は、換気モニターを設置しているが、冬季になると徹底できていなかった。		・運動時や教室での移動での捻挫や骨折の疑いが多くみられ、体育前の準備運動や体力づくりに取り組む必要がある。 ・感染対策は、生徒自らが日頃から意識できるよう指導に努める。 ・教室の換気については、網戸・換気モニターの設置しより換気への意識づけを行いたい。	B
入試広報室	入学者65名以上の確保	①入試広報行事の早めの告知。 ②塾訪問の強化。特に奈良市内への塾訪問強化。 ③夏期講習前の6月に塾関係者対象学校説明会の開催。		④合計入学者数(60名以上A、55名以上B、55名未満C)	D	入学生が37名であった。各入試行事の告知は比較的に早く出来た。塾訪問については昨年度に比べれば、頻繁にできたが、まだまだ訪問が充分ではないと感じている。塾訪問を頻繁にして、塾からの紹介数を増やすだけでなく、学校独自の発信にも力を入れた。		塾訪問を時には、入試広報部員で手分けして頻繁に回るようにする。学校独自の情報発信には、FacebookやインスタグラムなどのSNSを使ってい。ホームページもより見やすく改良していきたい。	D	
人権教育委員会		・各学年が取組課題について実施日・実施内容等の年間指導計画に則って、創意工夫しながら人権ホームルームを展開する。 また、教職員は積極的に研修の機会をとらえ、自己の人権間感覚をさらに磨くとともに学び得た知識や情報を共有する。		・人権について正しい理解や認識、また、感覚を培うため、学年の実態や状況を踏まえながら年間指導計画の立案と、それに基づく適切な指導案を作成する。また、さらに踏み込んだ学習の場として、外部講師を招いた講演会を開催する。 ・人権にまつわる外部の研修会、講演会を、開催要項・案内文書等で教職員に告知し、積極的な参加を促す。	・当初の計画通りに人権ホームルームを実施できたか。また、その振り返りや総括等が行えたか。さらに、外部講師を招いて年間1回の講演会を開催できたか。 ・人権にまつわる外部の研修会や講演会への参加促進の取組に伴い実際に複数名の参加があったかどうか。	B	人権ホームルームは概ね計画通りに取り組めた。また、例年夏期休業を利用して執筆する人権作文には、我々の予想以上に生徒が様々な人権課題に関心があることが伺えたし、差別を許してはならないという思いが読み取れる作品が目についた。また今年度はSSTや愛着障害についての職員研修を年2回実施し、例年以上に教職員の人権意識の啓発を促すことができた。次年度は、外部研修に教職員の積極的参加を促していきたい。		外部研修会への参加については、輪番での参加義務制を検討する。	B
渉外委員会	育友会活動が円滑に実施されるためのサポート	・聖華祭、育友会研修会等の活動のサポート ・広報誌「聖心広場」発行のサポート ・コロナ禍以前の活動に戻すものと、コロナ禍を経て活動を簡略化できるものとの振り分け		・年4回の育友会実行委員会、その他活動のサポート ・広報誌「聖心広場」年1～2回発行に対するサポート ・年間活動計画と活動内容の次年度に向けた検討と変更	B	聖華祭の模擬店をコロナ禍以前のスタイルに戻し、無事に実施することができた。一方で、育友会総会の書面議決や耐寒訓練での接待は現時点で実施し得る十分な内容で実施できた。		活動が円滑に実施できるよう、連絡を密に取っていく。	A	
いじめ防止対策委員会	いじめの未然防止、早期発見及びいじめ事案の対処	・学校生活についての個人面談 ・いじめアンケートの実施(年2回) ・いじめ防止対策委員会の実施(年間4回)		・学校生活についての個人面談を各クラスで年2回以上実施できたか。 ・いじめ事象が解消又は解消方向に進んだか。 ・いじめ防止対策委員会を年4回実施できたか。	B	面談及び委員会はそれぞれ実施できた。事象の解消については、対象が変化したり態様が変わることが多く、完全に解消することが難しく、観察中となることが多い。		あらゆる学習機会を通して、いじめはいつでも誰にでも起こりえる事ではあるが、くっけて見過ごしてはいけないことを伝える。被害にあった時は、ただちに相談しやすい人に相談する必要性を伝える。	B	